

平成 29 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

六ツ川地域ケアプラザ

■ 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

(1) 地域の現状と課題について

2 年度目となる「第 3 期南区地域福祉保健計画」に掲げた地域ごとの課題を解決すべく、各地区とも地域の福祉保健活動従事者を中心に、日々様々な取組がなされていた。

六ツ川地区：地域福祉保健計画では、「ふれあい六ツ川」がスローガン。また連合自治会の基本理念・方針としては昨年度に引き続き「活気ある住みよい町、きれいで安全安心な街づくり」が継続され、その深化の年として位置付けられた。

連合自治会としての地域の見守り活動の一環であり、また世代を越えた交流の場でもある種々のサロン活動が益々充実し、また単一自治会においても地域の結束のための取組、健康づくり・介護予防の観点に立っての取組に力が注がれ、地域の方々が日頃からお互いに声を掛け合うことのできる関係が広まってきている。地域の安全パトロールに子ども達が参加したり、地区内の中・高生が長年継承されてきた地域の福祉活動に参加する等、世代を越えたつながりの機会が維持されている。

一方で、地区社会福祉協議会の幹部メンバーが交替することとなる等、長年最前線で活動され、地域の活動を牽引してきた福祉保健活動従事者の役員交代が多く見られたが、独居高齢者食事会、介護者の集い、福祉バス旅行、昔遊び大会や保健体操会等、先進的に実施され、長年継承されてきた取組がスムーズに次代に引き継がれていた。平成 22 年から実施されている六ツ川「みまもりたい」については、みまもりタグ実証実験の地域住民への浸透を起爆剤として、今一度、「みまもりたい」にスポットライトが当たる機会となるよう働きかけていきたいと考えていたが、ケアプラザ職員の交代と「みまもりたい」側のメンバー変更が重なり、また実際にみまもりタグを携行する方が増えなかったこともあり、活発な活動の支援を行うまでには至らなかった。

六ツ川大池地区：地域福祉保健計画では、「つなげよう ひろげよう 地域で支える安心なまちづくり」をスローガンに掲げ、これへの実践が充実期を迎えている。連合自治会としては、「地域の絆」「災害対策」「心と身体の健康」をテーマとして、地域の活動で健康寿命の延伸、楽しみのある澆刺とした生活の支援に繋げようとの試みが引き続きなされていた。

特徴的なのは連合自治会・地区社会福祉協議会の下部組織としての支え合いグループ「すみれ」の活動の順調な発展、継続がある。特技を活かして地域で活躍して頂こうと男性への声掛けが盛んで実際にボランティアの登録も増えている。確実な需要の伸長に対して担い手の更なる増加のためにも引き続き新たな担い手の獲得支

援が必要である。連合自治会主催行事や各単一自治会単位で従来から継続されているサロン活動等でも、男性が参加しやすいよう、カラオケや麻雀と言ったメニューも積極的に取り入れられている。サロン活動自体の活発化とともに、集った方たちが別の活動の担い手として参加して頂けるように呼びかけるという好循環も継続されている。地域福祉活動を実践する担い手が更に増員されることで、今まで先頭に立って活動を引っ張ってきた方々の負担が軽減され、担い手自身が活動に楽しみを見つけ、継続した活動ができるような体制づくりが期待されている。

いずれの地域とも、今後益々の高齢化が進むなか、地域住民同士各々が、お互いに見守り、見守られながら、地域の中で具体的にどのように支え合い、つながっていけばよいのかを常に考えてきた土壌がある。あとはその考えを受け継ぎ、実際に担い手側に立って活動を牽引していける次代の担い手の発掘、増員、養成を如何に行うか。ケアプラザとしても、地域ケア会議や生活支援体制整備事業の協議体での議論の場なども上手く活用して地域の方々と課題を共有し、課題解決に向けて区役所・区社会福祉協議会等関係機関との連携を図りながら、地域の皆様が更に活動しやすくなるようサポートし、地域ネットワークの一層のつながり、広がり、深まりの実現に向けて取り組んだ。

当年度の重点目標として、次の4点を掲げて運営にあたった。

- 1 圏域住民と地域づくりの理念を共有すべく、「住民とのこころのふれあいを大切にし、「心と身体の健康」を意識した事業の展開で、活気ある安全安心なまちづくりをサポートする」のテーマを掲げ、日々の業務にあたっていく。
- 2 「身近な福祉保健活動の拠点・地域資源情報の拠点」としての機能の充実
- 3 「みんなで交流ケアプラ祭り」の「地域のまつり」としてのリニューアル開催
- 4 特別避難場所としての体制強化と地域住民への周知

以下、上記の重点目標に対してそれぞれ振り返ると

重点目標の1に対して

- ・ 地域活動交流コーディネーターの自主事業開催方法の工夫・努力により新たな来館者が増え、また地域包括支援センター職員及び生活支援コーディネーターが今まで以上に地域の活動に出向くことで、地域の生の声に耳を傾ける機会を増やしたことで、より地域と顔の見える関係を広め、深めることができた。今後も継続して地域の活動に積極的に出向いていく。

重点目標2に対して

- ・ 法人本部から広報担当の職員が定期に来所できる体制が整ったので、ホームページに掲載する地域情報の質・量・更新の頻度について、従来と比べ、かなり充実させることができた。ホームページ上の生活支援コーディネーターのページでは、地域の社会資源情報をマップ化してより分かり易く公開し、またブログによりタイムリーな地域情報を発信できている。今後は、この情報がどの程度閲覧され、実際に地域住民の情報収集に役立っているのかを分析し、更なる充実に繋げたい。
- ・ 昨年に引き続き、ボランティア交流会・懇談会、貸館利用者説明会・懇談会等の開催を通じ、地域社会資源を担う構成員同士の交流を図ることができ、またお互いの活動の周知や情報の共有に繋げることができた。集った方たちが、地域でのボランティア活動に興味を示していることを感じ取り、実際に活動に繋がるようにと、区社協職員の協力も得てボランティア講座、障害理解講座を開催できたことも新たな取組として特筆すべきであり、来年度以降、趣向を変えながらも継続して実施していきたいと考えている。

重点目標3に対して

- ・ ケアプラ祭り実行委員会の組織について、委員の公募を従来の実行委員メンバーに提案したものの、議論を重ねる時間が足りなかった。今後、当日のボランティアの人材を広く地域の中から募るなど、少しでも新たな地域活動の担い手の発掘、育成に繋がるようにしたい。

- ・ ケアプラザの存在周知に留まらず、日頃から取り組まれている地域福祉保健活動の周知発表ができる展示物を掲げるコーナーを設け、担い手側の更なるモチベーションアップ、活動の活性化に繋げる場として発展させたい。

重点目標 4 に対して

- ・ 一部の自治会定例会、地域防災拠点で実施される訓練、連合自治会レベルでの防災関連の研修会にてアピールする機会を得て、ケアプラザの特別避場所(=福祉避難所)としての位置づけ、役割について周知することができた。
- ・ 区を通して市から支給された災害時優先携帯電話を活用しての連絡訓練を実施。特別避難所場所から福祉避難所へ名称と役割が変更することについても、所属の全職員に周知して有事に備える体制、心構えを整えたい。

(2) 相談（高齢者・こども・障害者分野等の情報提供）

- ・ 総合相談業務の機能については、様々な場面で情報提供・周知を行い、高齢者、こども、障害者等の様々な分野の相談について、地域ケアプラザの窓口を主とすることはもちろん、自主事業や地域での会合などにおいても相談業務を行った。
- ・ 地域活動交流、地域包括支援センター、生活支援コーディネーターで協働し、高齢者、子育て、障害児・者に関しての、地域資源情報一覧を作成、定期に見直し更新し、種々の相談に役立てた。
- ・ 相談対応をスムーズにするためにも、各種社会資源を掲載した情報紙、ホームページ上の情報等常に最新のものを整備し、かつ、職員誰もが説明の対応をできるように努めた。
- ・ 高齢者サロン「シルバーカルチャー」参加者や貸し館利用者、ボランティアとの話しやすい関係づくりを心掛けているためか、相談窓口となることが増えた。
- ・ 障害分野に関しては、継続的に自主事業「ハッピーダンス」を開催し、障害に関しての相談を受ける身近な場所としての地域ケアプラザの存在を周知し、ちょっとボランティアで「散歩の同行」を支援した。
- ・ こども分野に関しては、「ぴよんぴよんダンス」を月 1 回開催し、子育て中の保護者の身近な相談窓口の存在であることをアピールできた。

(3) 各事業の連携

- ・ 地域活動交流、地域包括支援センター、生活支援コーディネーターとで収集、統合、随時更新した地域資源情報をケアプラザ内に掲示し、来館者の閲覧に供することができた。この情報は、ホームページ・ブログ等も活用し、周知につなげた。
- ・ 地域活動交流の自主事業の参加者や地域に訪問した際に、介護保険によるサービス等が必要と思われる方々に対して、地域包括支援センターにつなぎ、介護保険申請やサービスの説明等を随時行った。
- ・ 地域包括支援センター三職種五職種会議の定期的な開催により、特に地域活動交流が実施している自主事業等に参加をしている利用者で、介護保険等の申請が必要になりそうな利用者の情報を地域包括支援センターに繋げることによる早期の支援を行うことができた。
- ・ 他の会議開催時間との重複により、区役所担当職員と地域包括支援センターとの定期カンファレンスに生活支援コーディネーターが出席できない時期があったので、年度後半に改善した。
- ・ 年度後半には、生活支援コーディネーターの交代、地域包括支援センター職員の交代もあり、活動がやや立ち止まる時期があったが、来年度以降、活発な協議体の開催、地域ケア会議の開催を進めるための土台固めに必要な異動であったと振り返られるようにしたい。

(4) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

職員体制

- ・ 各事業とも配置基準に従い、必要な有資格者の配置を行った。法人本部からの広報職員の派遣、協力も得て、従来あまり時間の割けなかった広報に関する分野にも力を注げる体制を整えた。

職員育成

- ・ 指定管理者として法令順守を常に意識して業務に当たることのできる職員の育成に努めた。特に個人情報の取扱いについては、基本協定に定めるところにより、年度当初の全体研修（中途採用の際には雇入れ時に随時）で順守事項を確認し、個人情報保護への意識の徹底を図った。
- ・ 事業所内研修・・・各事業から選抜した職員で編成した研修委員会により、年間の研修計画を作成。月1回の全体職員会議の場や、各事業会議の場において計画的な研修を実施した。シフトの関係で会議に参加できなかった職員にも報告書の回覧や事業毎に職員同士での伝達を図り、全職員で研修内容を共有。知識や技術の向上を図り、業務改善やサービスの質の向上につなげた。職員の発案により、昨年度実施した介護職向け職員講座 Web 版を継続。動画での講義やオリジナル研修資料を職場内研修に役立て、充実させることができた。
- ・ 法人本部との共催研修・・・財務会計に関する研修、自動車運転業務を行う職員を対象として実施する安全運転講習等、法人全体として実施する研修にも随時参加してレベルアップを図った。
- ・ 外部研修・・・ステップアップのための資格取得、資格更新のための研修情報の提供、受講費用の負担、勤務シフトにも配慮し、研修の受講がし易くなるように配慮した。
- ・ 研修情報の提供・・・各種講習・研修・セミナー等の開催情報の回覧・情報紙の掲示により、自己啓発のための情報が入手し易くなるよう配慮した。
- ・ 不特定多数の方の集う公共施設として、また災害時には特別避難場所としての機能を円滑に担うため、職員の防災に対する意識の向上と、利用者の安全を守るための知識の定着を目的とした研修（月例防災訓練）を実施した。研修は、防災委員会が主催し、毎月1回、短時間ながらも、出勤の全職員の参加を促し、繰り返して実施することで、いざと言うときに効果が期待される研修を継続して実施した。
（基礎防災訓練・・・防火・防災設備機器の位置や機能の確認、実使用訓練、職員点呼訓練、119番通報訓練、特別避難場所開設マニュアルの確認、土砂災害対応マニュアルの確認等）
- ・ 安全管理・衛生委員会にて職員の健康管理について毎月ミニ研修を実施。産業医の協力を得てアドバイスを頂くことで充実が図れ、職員自身の心身の健康管理の一助とすることができた。
- ・ 自主事業参加者に認知症の方が増えたことをふまえ、地域活動交流会議内で、ミニ認知症サポーター養成講座を開催し対応に備えた。

(5) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ・ 地域開催の会合へ積極的に参加することにより、相互に顔が見える関係性を培い、地域連携を進め、一層のネットワーク強化へとつなげた（地域の関係機関、関連団体（地区社会福祉協議会、連合自治会、民生委員・児童委員協議会、老人会、各種サロン、ボランティア団体等）には定例会をはじめとし、随時参加し、情報提供、共有を行い、協働した）。
- ・ 六ツ川地区見守りネットワーク事業の拡大の為、地域住民中心の企画部会（定期会議）に参画した。また子育て支援、各種サロン等の事業に出向き、ネットワーク構築に向けて協働した。
- ・ 六ツ川大池地区支え合いグループ”すみれ”の企画会議に参画し、地域でのお互いの見守りの視点から六ツ川大池地区の住民等が安心して生活できる地域づくりとなるように協働した。

- ・ 六ツ川大池地区ふれあい相談会に参加して、相談内容の把握だけでなく、情報交換も行った。
- ・ 地域ケアプラザの改めでの周知、担当エリア内連合自治会の枠を越えての地域住民の交流の場として、第5回「みんなで交流ケアプラザ祭り」を開催した。実行委員会を公募で構成することはできなかったが、前日の準備ボランティア、当日の片づけボランティア、また作品展出品者を、地域の中から募り参加していただいた。

(6) 区行政との協働

- ・ 2年度目となる「第3期南区地域福祉保健計画」の各地区別計画に沿って、六ツ川地区、六ツ川大池地区、別所地区とも各地区の実情・特性に応じた地域づくり、見守り活動の推進、サロンの立上げ・継続、支え合いグループの発足等、地域ネットワークの充実更に力が注がれていた。地域ケアプラザとしても地域の皆様が更に活動しやすくなるようサポートするため、区役所や区社会福祉協議会と連携しながら地域ネットワークの一層のつながり、広がりの実現に向けて取り組んだ。
- ・ 区役所、区社会福祉協議会の担当職員との連携がスムーズに行え、各種事業の実施で多大なる協力を得ることができた。地域支援チーム連絡会の場での情報共有、顔の見える関係づくりが役立っており、日常の事業実施にあたっては協力体制を求めやすくなっているという、よい循環が生まれている。
- ・ 年度当初、生活支援体制整備事業としての「協議体」の前段階として「交流会」程度のフラクな会議を自主開催できないかと模索したが、結果的に実現できなかった。しかしながら、生活支援コーディネーターにより、地域の方からの、「認知症カフェのようなサロンを作りたい」との声を上手く拾い上げることで、地域の方や介護事業所と共に開催に向けて話し合いを設け、新たな社会資源の創設に寄与することができた。今後も地域の方の動き、思いを敏感に感じ取り、また、地域支援チーム連絡会での情報交換も活かしながら、協議体や地域ケア会議の開催の切っ掛けとして、不足する社会資源の創設に向けて支援していきたい。
- ・ 南区役所、サザンウインドと共催で、「うつ病理解講座」を開催し、広く地域住民に呼びかけ参加していただいた。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

- ・ 子育て支援事業として親子参加の「ぴよんぴよんダンス教室」を月1回開催、「おはなしコンサート」を年2回開催し、多くの参加者を得ることができ、参加者には「ママと子のホットタイム」や地域で開催の子育てサロンの紹介もするなど他の事業にも参加を促すことができた。またケアプラザ周知にも繋がった。
- ・ 障がい児・者支援事業として、月に2回定期的にダンス教室を開催した。昨年に引き続き12月に発表会を開催することができ、参加者の成長の跡を見ることができた。また、3月で対象年齢から外れる参加者をボランティアとして迎え、会場設営や参加者の見守り活動を支援することになった。
- ・ 地域包括支援センターと連携しながら、積極的に高齢者支援事業（食事会・講座）への参加受入れを行い、参加者の情報共有を行いながら必要に応じて対応した。
- ・ 地域向け支援事業では、自主事業終了時、ボランティア活動についてのアンケートを行い、参加者にボランティア活動の意識付けをした。
- ・ 健康麻雀教室参加者のOBグループ（目的外利用団体）を福祉保健協力団体の登録へと促し、ボランティア活動を支援した。
- ・ 地域向け支援事業の「健康街歩き」は、住民の健康志向の意向もあり、回を重ねるごとに地域に周知され参加者が増え、介護予防につながってきている。また保健活動推進員主催のウォーキングの周知に協力し、イベント当日も参加した。
- ・ 毎月開催の高齢者サロンにおいて、講師等を招いて実施する講座の中で一般の方

にも興味を持っていただけそうな内容の回（「医師による認知症にならないための話」「介護予防体操教室」「落語」等）には、地域住民にも開放し、同時開催として参加していただいた。

- ・ 新たに、ボランティアが中心の地域向けの音楽サロン「生演奏ミュージックサロンはなみずき」を月1回開催することができた。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ・ 福祉保健活動団体が希望日程でご利用いただけるよう調整を行った。また、貸館を利用する各団体へも希望日程でご利用いただけるよう配慮した。
- ・ 夜間に行う福祉保健活動団体参加者等に対し、駐車場の利用台数制限をなくし、気軽に来られるよう配慮した。
- ・ 平成30年1月に貸館利用団体交流発表会を地域住民も参加できる形で開催し、団体同士の顔の見える関係づくりをし、メンバー募集の支援も兼ねることができた。
- ・ 福祉保健活動団体等に高齢者支援自主事業での公演活動の支援をした。
「ケアプラザ祭り」の公演に、障がい児者グループの参加をすすめた。これにより、活動団体等が活動する場及び活動自体を地域住民に周知する機会になった。
- ・ 福祉保健協力団体にデイサービスでの手芸活動を支援した。
- ・ 自主事業の手芸講座が、自主サークル「ふくろうの会」となり、今後、福祉保健活動を支援していく。
- ・ 区社会福祉協議会の協力でボランティア理解講座を開催し、ボランティア活動の幅を広げることができた。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

- ・ ボランティア希望の方の受入れをし、通所介護や地域活動交流自主事業を活動の場所として、活動希望者の意向に沿ったコーディネートを行った。またボランティア活動に慣れてきた方に、他の活動を勧めボランティアの幅を広げられた。
- ・ 広報紙にボランティア紹介コーナーを設けて掲載したことで、対外的な周知だけでなく、ご本人方の活動意欲向上にもつなげることができた。
- ・ ちょこっとボランティアの作業は、依頼内容やボランティアの意向を聞きながらコーディネートした。
- ・ 昨年度のボランティア交流会・懇談会からボランティアで「サロンを企画するとしたらどんなことができるか」のテーマで意見交換をしていただき、その後ボランティアスタッフを募り企画会議を重ねて、「生演奏ミュージックサロンはなみずき」というサロンを開催できた。演奏も地域住民を中心に募り、新たな人材の確保にもつながり、音楽好きな地域住民の居場所となった。
- ・ 六ツ川大池地区の住民からのちょこっとボランティアの申込みには、支え合いグループ“すみれ”を、また別所地区は“スマイルサポート別所”の活動を紹介し、利用につなげた。
- ・ 六ツ川大池連合婦人部の方々には、地域活動交流自主事業「シルバーカルチャー」の食事の盛付け配膳をしていただけるようコーディネートした。
- ・ よこはまシニアボランティアポイント事業のボランティア登録研修会を開催し、ボランティア活動の意欲向上をサポートした。またボランティア入門講座も同時開催し、ボランティアの育成に努めた。講座後に、ボランティアが初めてで不安な方々に、まずは体験としてデイサービスのボランティア活動を勧め不安を解消していただき、また活動意欲を尊重してボランティア活動がすぐに行えるよう支援した。
- ・ 貸館大掃除会を、区社会福祉協議会協力で「ボランティア講座」と同時開催し、参加者に福祉保健活動を理解する場をもうけた。
- ・ ボランティア懇談会で、区社会福祉協議会の協力で、障がい理解講座を開催し障がい関係のボランティア活動についての紹介をしてもらい、早速、南区障がい児余暇支援事業の交流会に参加いただいた。

- ・ 六ツ川連合で定例開催している保健体操会で体操指導者が一時不在となり、代行を探しているとの情報を得て、ケアプラザ自主事業で関わりのある方を紹介し指導を行って頂くことができた。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ・ ホームページの「貸し館情報」の掲載について継続して実施し、貸し館の使用状況、空き情報など週1回の更新に取り組んだ。また、自主事業講座の新規募集情報なども随時更新した。
- ・ 広報紙「地域交流便」、ホームページの「地区だよりコーナー」で、地域のサロン開催の様子を、投稿記事も含め掲載できた。またロビーに地域社会資源情報一覧や、サロン等の取材写真や記事を掲示し、ひと目で様子が見えるようにした。また自主事業一覧のチラシを作り、いつでも紹介できるようにロビーに配架した。
- ・ 貸館利用団体交流発表会を開催し、地域住民にも周知し誰でも参加できるようにした。各団体の活動発表、いくつかの団体の合同発表があり、その中には体験型の発表もあり、会場の全員で交流することができた。また、顔を合わせる機会が増えたことで、ネットワークづくりの場になった。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

- ・ 地域のサロン等の集いの場や、会議の場に多く参加する事で、説明の機会を作っていたいただき、生活支援体制整備事業の周知に努めた。
- ・ 地域の集いの場に参加することで、地域の方より認知症カフェの場を作りたいとの声を拾うことができ、地域の方や介護事業所と共に、協議体を開催。立ち上げに向けて、後方支援を行い9月より1ヶ月に1回の集いの場を開催するに至った。
- ・ ホームページに生活支援体制整備のページを作成し、アクセスして地域活動の情報を得られるようにしたと共に、ブログに生活支援コーディネーターの活動情報を載せて、生活支援体制のアピールに努めた。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- ・ 地域のサロン等に積極的に参加し、情報を把握し、ブログに活動の情報をアップする事に努めた。参加した活動の中から出てきた意見を元に、認知症カフェの活動開始のための後方支援をすることができた。
- ・ 六ツ川大池地区の支え合い活動すみれの定例会に参加し、活動をバックアップするために、今までの活動数をグラフ化してニーズを見える化する等、課題をメンバーで共有、意識向上できるように支援した。

(3) 連携・協議の場

- ・ 認知症カフェの場を作りたいとの声から、地域の方や介護事業所と共に、協議体を開催。立ち上げに向けて、後方支援を行い9月より1ヶ月に1回の集いの場を開催するに至った。
- ・ 六ツ川みまもりたいの定例会議に出席して、みまもりタグの実証実験の活用を広めることに努めた。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- ・ 区域の「ちょこっとボランティア交流会」の運営委員を務め、生活支援を行っている団体の意識向上、情報交換、交流等の運営を行った。
- ・ 区域において「生活支援みなみプロジェクト」の取組として、区内の全ケアプラザの広報紙において、掃除の便利グッズに関する情報収集を現在行っている。
- ・ 六ツ川みまもりたいにおける「みまもりタグボランティア」について、エリア内である六ツ川大池地区への周知も行った。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

- ・ 相互に顔が見える関係性を培い、地域連携を進め、一層のネットワーク強化へとつなげるため、地域開催の行事、地域の関係機関・関連団体（地区社会福祉協議会・連合自治会・民生委員・児童委員協議会・老人会・サロン・ボランティア団体等）の定例会をはじめとし、活動の現場に地域包括支援センター三職種（保健師等、社会福祉士、主任介護支援専門員）はもちろん、地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーター、所長で随時積極的に参加し、情報提供、共有を図ることができた。
- ・ 複数の地域より依頼をいただき、町内会館にて地域ケアプラザの役割や業務内容等についての講座を開催することができた。
- ・ 六ツ川地区の見守り事業である「六ツ川みまもりたい」に協力し、同地区で始まった「みまもりタグを活用した認知症高齢者の地域の見守り実証実験」の普及にあたり、地域の介護保険サービス事業所やケアマネジャーにチラシの配布や情報を提供することで後方支援した。また、徘徊の不安のある相談者や「南区あんしんネットワーク」の登録者に対しても「みまもりタグ」の情報を周知した。

② 実態把握

- ・ 従来からの各地区民生委員・児童委員協議会定例会への参加に加え、毎月第3土曜日に開催されている六ツ川大池地区の民生委員の相談会「ふれあい相談会」にも新たに定例参加させていただき、地域包括支援センターからの情報提供や相談対応を行うとともに、地域の実態把握に努めることができた。
- ・ 地域活動交流の自主事業＝高齢者食事サロン「シルバーカルチャー」に参加し地域ケアプラザからの情報を伝えるとともに、参加者（地域住民、民生委員）からの相談や話を聞き実態把握に努めた。
- ・ 民生委員・児童委員協議会等公式の場に留まらず、サロン活動や地域の防災訓練・地域の様々な行事に参加し、地域の生の声を聴取して実態を把握し、各種相談に対応することができた。

③ 総合相談支援

- ・ 地域の「身近な総合相談窓口」として福祉・保健にとらわれず、生活全般に渡り・三職種（保健師職・社会福祉士・主任介護支援専門員）それぞれが専門性を活かして各種相談に対応した。
- ・ ケアプラザ窓口に留まらず、地域の活動場所に健康介護相談室を開設して相談業務を行った。昨年度から引き続き、六ツ川四丁目自治会館にて定期的開催されているサロン「憩いの家」に月に一回「健康・介護関連相談コーナー」を設け、出張相談（民生委員と同行訪問相談を含む）を行った。

- ・ 今年度より六ツ川大池地区にて開催されている「ふれあい相談会」にも包括職員が出席し、相談対応を行った。主に民生委員からの相談を受けた。

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- ・ 日頃から地域住民や民生委員、ケアマネジャー等と情報共有を行い、詐欺被害や金銭搾取等の高齢者の権利侵害（またはその可能性があるものも含める）に関する問題の発見に努め、区役所や関連機関と連携しながら必要な支援を行った。
- ・ 各地域の民児協、出前講座、地域交流の自主事業、老人会にて南区版エンディングノートの説明と配布を行った。
- ・ H29. 10/10に区民企画講座にて地域住民を対象に介護保険制度と成年後見制度の講座を開催した。参加者は20名。講座時間をもう少し長く設定して頂いた方が良かった、参加者に配布する資料の準備をした方が良かった、等の反省はあるが、成年後見制度の普及・啓発の一助とすることができた。
- ・ H29. 11/17に司法書士事務所と包括共催で地域住民を対象に「終活講座」を開催した。参加者30名。参加者からの感想は概ね好評だった。

② 高齢者虐待への対応

- ・ 地域住民や地域ケアマネジャーから情報提供があった際、速やかに区に報告を行った。状況によって同行訪問を行い、支援者間で集まりカンファレンスを開催して情報共有と対応について検討し、支援者間で連携してケースに対応した。

③ 認知症

- ・ 六つ川西小学校5年生（87名）対象に「認知症サポーター子ども養成講座」を開催した。小学生からは「認知症を理解することができた」「優しく接することの大切さを学んだ」等の感想が出た。
- ・ 今年度も計4回の「介護家族の集い」を開催した。毎回参加して下さる方が増え、延べ参加人数も増加した。人数が増えたことによる進行の難しさも出てきたため、来年度からは状況に応じて内容の見直しやテーブル配置の工夫等を行う予定である。
- ・ 今年度新たに3名の認知症キャラバンメイトの登録を行った。平成30年3月には、ケアプラザ協力医、区内リハビリ専門職の協力を得て、キャラバンメイトと介護予防サポーターの合同勉強会を開催、活動の支援を行なった。
- ・ 認知症の方の相談対応に際してはもちろん、地域での会合や各種会議に出向いた際、「南区あんしんネットワーク事業」の周知や更なる利用を促した。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ・ 各地区で開催される民生委員・児童委員協議会等の集まりに参加をして地域の個別事例を共有、横浜市総合事業、介護保険制度、研修等の情報提供を行った。
- ・ 区役所、サザンウインドと共催で精神科医を講師として「うつ講座」を開催。地域住民、介護予防プラン委託先事業所の参加を呼びかけ、地域包括ケアシステムについて説明や周知を図った。
- ・ 地域の老人会、サロン等にて出前講座を開催。地域包括支援センター、介護保険

制度、横浜市総合事業、認知症予防等の講座を開催した。

- ・ 今年度新たに六ツ川3丁目「サロン大野」出前講座の依頼を受けた。役員と事前打ち合わせ後「介護保険サービス」「健康づくり」の出前講座を開催した。
- ・ 今年度も計4回の「介護家族の集い」を開催した。毎回参加してくださる方が増え、延べ参加人数も昨年度より増加した。

② 医療・介護の連携推進支援

- ・ 適時に地域の医療機関、薬局を訪問、地域情報の提供や地域ケア会議の参加を呼びかけ顔の見える関係作りに努めた。
- ・ 南区医師会在宅療養連携拠点・在宅医療相談室事例検討会に参加。医療連携・多職種連携に努めた。

③ ケアマネジャー支援

- ・ 地域包括支援センター職員のスキル向上のため、介護予防研修、認知症研修、コミュニケーション研修等に積極的に参加をし、知り得た最新情報・知識を基にケアマネジャーへの相談支援・情報提供に努めた。
- ・ 区・南区8包括共催による「インシデント方式」による事例検討会を開催。その他に「ケアマネジャー力向上研修」、南区居宅介護支援専門員連絡会あったかネット南との共催により「インテークの基本」研修を開催した。
- ・ エリア内の6つの事業所を対象にケアプラザ協力医を交え「ケアマネ交流会」を開催。協力医を講師として疾患・認知症等の学習を行い、ケアマネジャーのスキル向上を図った。
- ・ 区・8包括協働による新任ケアマネジャー実習を開催。研修後には新任ケアマネジャーからの個別の相談に応じ、孤立感の防止を図った。
- ・ 区役所、サザンウィンドとの共催により「うつ講座」を開催、エリア外のケアマネジャーにも参加を呼び掛け、スキル向上を図った。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- ・ 地区別に個別地域ケア会議を2回開催した。地域住民、ケアマネジャー、サービス事業所との連携強化、ネットワークの構築、地域課題の共有化を図った。
- ・ 六ツ川大池地区での包括版地域ケア会議を開催。コミュニティ・アズ・パートナーモデル及びマインドマップを用いて地域課題の抽出と共有を図った。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- ・ 介護予防支援業務委託の居宅介護支援事業所の拡大と共に、事業所との連携を密にして要支援者、事業対象者に対して個別性のある自立支援、目標志向型の介護予防ケアマネジメントの作成を意識して実施した。
- ・ 日常生活支援総合事業の移行、サービスの提供は円滑に実施できた。認定の更新に伴い事業対象者も少しずつ増加した。
- ・ 顧客満足度調査を実施し、利用者や家族の意向などの把握に努めた。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- ・ 地域活動交流の自主事業＝高齢者食事サロン「シルバーカルチャー」にて、地域包括支援センターの介護予防体操講座を同時開催。一般の地域住民も参加可能としたことで多くの方の参加で賑やかに開催することができた。
- ・ 4月に「元気づくりステーション 六ツ川一丁目脳トレ歩こう会」を立ち上げ、毎月第2、第4木曜日の午前10時～11時30分にて自主活動を継続している。ボランティアも充実し、参加者は毎回40名を超えている。既存の2グループも事業を継続している。
- ・ 介護予防事業（ロコモ、栄養、口腔、認知予防）の普及啓発事業、健康講座（出前講座）は六ツ川地区、六ツ川大池地区、別所（中里台）地区全体に向けて区と協働して展開することができた。

5 その他

--

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

7 施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

- ・ 指定管理者として、公共の施設を維持管理していくことを常に意識して職務を遂行した。
- ・ 横浜市と締結した協定と仕様書に基づいて、専門業者による建物・設備の定期点検・保守を実施し、提出された業務報告書の内容を確認して、以後の適切な設備の維持・管理に役立てた。
- ・ 他に類を見ない、極めてお洒落な、横浜らしいデザインの建物である。高さ約4mと天井が高く、特殊ガラスの活用で太陽光が溢れんばかりに注ぎ込む、とても明るい施設であり、その特性が常に発揮されるよう、カーテンの開閉を適宜行い、また庭木の管理も継続して実施し、訪れる住民の憩いの場としての環境を整えることを意識した。
- ・ 職員による施設巡回作業を少なくとも日中1回、夜間2回以上実施して、月1回の設備管理業者点検、管理者である所長の自主点検と合わせ、危険箇所を含め破損・故障箇所の早期発見を行い、必要な修復を行った。
- ・ 多くの利用者が訪れる場所として、日々の清掃、感染症の予防に配慮することで、快適安全な使用環境を維持した。産業医と共に月に一回の巡視を通じて施設内の危険箇所・不具合箇所の発見に努め、より快適な施設設備となるよう改善を図った。
- ・ 節電に努めながらも、施設内を明るく、清潔に保ち、利用する方々が気持ちよく過ごせるよう日々の環境整備を心掛けた。

(2) 効率的な運営への取組について

- ・ 法人理念、事業目標に基づき地域の福祉拠点施設として、地域包括支援センター・地域活動交流を中心に、各事業が協力・連携し、24時間、365日地域の方々の生活支援に当たった。
- ・ 勾配の急な坂の上という立地条件にありながら、コーラス、健康体操、太極拳等、自主事業から自主活動化したグループが地域に根を張り、定期活発に利用して下さっている現状がある。しかしながら、特に高齢者がアクセスしづらいことは否めず、そのため介護家族の懇談会や高齢者の食事会には、自動車を用意して送迎を行い、利用の促進につなげた。
- ・ 貸館利用者懇談会及び交流会を開催し、各利用団体がどのように活動しているのかを相互に理解して頂くことで、お互いに気持ち良く施設を共用して頂けるよう働き掛けた。
- ・ 年に1回の利用者アンケートの結果を受け、空調機器操作盤の表示部や非常口案内の掲示に改良を加えるなど、以後の施設運営に活用した。
- ・ 施設自主事業に関する広報（PR）の主な手段として、定期的な広報誌の発行やチラシの作製を行い関係機関・町内会への各戸配布をし、地域住民への広報活動を行って利用の促進につなげた。
- ・ ホームページをリニューアルし、またブログを開設して適宜更新情報を掲載することで、地域の福祉保健活動の紹介や新事業に関する情報をよりタイムリーに発信することができてきている。
- ・ 夜間に行われる自主事業や自主活動団体参加者に対し、駐車場の利用制限をなくし、建物脇の通路を開放し、気軽に来られるようにした。
- ・ 施設出入口に、総合案内（施設案内、各種事業の紹介、役割等）を記したパンフレットを配置したり、毎月1回、カラー写真を多数掲載した「地域交流便」に情報を掲載して各自治会掲示板への掲示を依頼。また回覧板で各戸閲覧の協力を依頼し、

広報した。また自主事業は、事業カレンダーの館内への掲示、ホームページ上での自主事業参加者募集情報の掲載を随時実施して参加者を公募した。自主活動に関しても、主催者からの要望に応じ、可能な限りで参加者募集の記事を掲載して利用者の増加を図った。

- ・ 毎月開催されている地域の連合自治会長会、民生委員児童委員協議会に出席して施設の利用案内、事業紹介を随時実施した。

(3) 苦情受付体制について

- ・ 福祉保健活動の拠点としての地域ケアプラザの運営にあたって、利用者のニーズを把握してサービスの向上に反映、改善させていくことは、サービス提供の初めの一步であり、施設を活性化させていくことと考える。苦情は、サービスの質の向上に向けた取り組みを行う為の貴重な情報源と捉えて日々の運営に臨んだ。
- ・ 来館者が通る通路と事務室が近いこともあり、事務室に在籍する職員は来館者に進んで明るい挨拶をするよう意識し、コミュニケーションの取りやすい、利用者からの要望を受けやすい環境を整えるよう努めた。
- ・ 苦情受付担当者・苦情解決責任者・苦情解決第三者委員（法人本部との共同設置）の設置を行い、苦情受付体制・フォロー図の施設内掲示をするとともに、利用契約時には、公的機関に対しても苦情の申立てができる旨の丁寧な説明を実施した。
- ・ 利用者のニーズの把握にあたっては、事業ごとに、サービスについての満足度調査を実施し、要望や苦情を把握すると共に、結果を集計、分析して、結果を館内に掲示した。職員にとっても利用者から何を求められているかを意識し、改善に努める切っ掛けになっている。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- ・ 防犯対策として、安全な管理運営実施の為、夜間の職員不在時もセキュリティ会社との機械警備契約を行い、施設の安全管理に努めた。敷地内要所に人感センサーLEDライト等を設置し夜間帯の防犯管理体制も強化した。
- ・ 防災委員会が主催し、毎月1回、短時間ではあるものの勤務全職員が参加しての月例防災訓練を実施した。内容としては、職員点呼訓練、119番通報訓練、消火器訓練等、繰り返して実施することで効果が期待される訓練の実施や、特別避難場所の運営と地域防災拠点との連携について、職員緊急時連絡網の確認と更新、避難経路の確認や熱感知器、煙探知機の機能について等、職員の防災に対する意識の向上と、利用者の安全を守るための知識の定着を目的として実施した。
- ・ 年に2回、消防署職員・防災設備業者に協力を仰ぎ、総合防災避難訓練を実施した。
- ・ 職員による施設巡回作業を少なくとも日中1回、夜間2回以上実施して、防犯、防災体制を徹底した。
- ・ 緊急時を想定し、施設内利用者数を確実に把握する為、日々、来訪者が施設への出入りに際して利用表に自主的に『チェック』していただくことでの利用者数把握への協力をお願いした。
- ・ 南消防署六ツ川消防出張所長の指導を仰ぎ、心肺蘇生法、AED使用法の研修を実施して利用者の急変時の対応に備えた。

(5) 事故防止への取組について

- ・ 施設を利用される方々に安心して質の高いサービスを利用していただくため、全職員が意識して事故防止に取り組んだ。
- ・ 各事業から選抜した職員で構成する安全管理・衛生委員会と防災委員会を設置し、組織的かつ効果的な事故防止対応体制づくりに努めた。
- ・ 安全管理委員会では、日頃よりリスクへの気づきを高めるため『事故防止マニュアル』の活用を行い、「ヒヤリハット報告書」で挙げた事例を用いて、事故防止の啓発を行った。
- ・ 特に直接身体介護業務に当たり、危険要因の多い通所介護事業においては、朝夕のミーティング時に利用者の状況把握を行い、直近の情報を共有し、事故防止についての確認を行った。送迎・移動・入浴・昼食・活動中とそれぞれの場面におけるリスクの洗い出しを行い、事故の予防に努めた。
- ・ 事故発生時には、原則24時間以内に事故検証会議を開催し、事故の原因・課題分析を行い、再発防止策を講じて共有化を図った。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

- ・ 個人情報基本方針・個人情報の利用範囲を施設内に掲示、個人情報保護に関する全体研修を実施し、個人情報の取扱いを慎重に行い、漏えい防止・保護に努めた。
- ・ 自己の職務に関する否とを問わず、知り得た情報に守秘義務があることを、雇入れ時はもちろん、年度当初の研修の実施で全職員が再度確認した。
- ・ 個人情報を適正に管理するため、事務作業に際し、離席時のコンピュータのロック、コンピュータや個人情報の含まれた書類等の施錠保管、書類廃棄の際のシュレッダー利用の徹底、コンピュータ内の個人情報ファイルへのパスワードの設定等を徹底し、個人情報を適性に管理した。
- ・ ボランティアの受入れにおいても個人情報保護について説明、書面で守秘義務の確認を行った。

(7) 情報公開への取組について

- ・ 法人の運営状況・自主事業を含む最新情報の提供を行うために、ホームページを開設、充実させ、利用者が必要とする情報の公開に努めた。
- ・ 施設の広報誌『地域交流便』を毎月作成し、エリア内自治会町内会に回覧板での周知や掲示板への掲出を依頼。地域・施設の最新情報の提供を行った。
- ・ 施設の事業計画・事業報告の閲覧・決算書を施設内に掲示し、情報の公開に努めた。
- ・ 介護サービス情報公表の調査を実施し、情報を公表した。
- ・ 保有情報の公開請求に備えて策定した六ツ川地域ケアプラザ情報公開規程を職員間に周知し、個人情報の保護に配慮しつつ、情報公開の体制を整えた。

(8) 人権啓発への取組について

- ・ 横浜市社会福祉協議会高齢福祉部会地域ケアプラザ分科会の人権研修「『支援する』ことは『学ぶ』こと～『尊厳』というかけがえのない人権を根底に～」を受講した所長からの伝達研修として、また併せて、横浜市人権施策基本指針の冊子を活用し、意見交換しながら、職員会議の場で、人権啓発研修を実施。障害を抱える方の理解や人権について皆であらためて考えた。

(9) 環境等への配慮及び取組について

- ・ 施設内にゴミ減量を促すポスターを掲示して、利用者及び職員の私用ごみの持ち帰りを励行し、ごみ減量化に努めた。
- ・ 使用していない電化製品の電源プラグは抜いておく、施設内に職員だけしかいないときには衣類で調節することで空調機器の使用を控える、照明は必要最小限にする等、地道な節電を意識することで温暖化防止の一助とした。

【介護保険事業】

●指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

保健師職（看護師）	常勤1名
社会福祉士	常勤2名
主任介護支援専門員	常勤1名
介護予防支援プランナー	非常勤1名

《目標に対する成果等》

六ツ川地域包括支援センターエリアの要支援者等が、円滑に、自立した生活支援のサービスが受けられるよう、目標志向型のケアプラン作成サービスに提供を行った。又、介護予防事業の紹介や参加で重度化防止に努めた。

包括職員の姿勢としては、ご利用者が自分らしく住みなれた地域で安心していつまでも暮らしていけるような地域づくりに向けて包括ケア会議等で地域と連携した。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 今期の実費負担はなし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

地域住民と共に、孤立防止・閉じこもり防止を目的とした見守りネットワークを構築するため、企画運営会議に参画、協働を行う。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
205	209	215	213	219	221
10月	11月	12月	1月	2月	3月
224	228	228	233	234	234

●居宅介護支援事業

《職員体制》

ケアマネジャー 常勤専任 3名 常勤兼任 1名

《目標に対する成果等》

地域の高齢者が自立した日常生活を営むことができるよう「介護予防」「重度化予防」の視点に立ち、ケアプランを作成した。

地域の方や地域包括支援センターとの連携に努め、地域の独居高齢者の支援の強化を図り、処遇困難ケース等の支援も行った。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 居宅介護支援計画作成費・サービス調整について実費負担はなし。
- 今期の実費負担はなし。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

地域の保健福祉活動従事者との継続的情報交換を行うため、地域包括支援センター主催の地域ケア会議・交流会には積極的に参加するなど、顔の見える関係づくりに努めた。

認知症研修、医療連携研修に参加して、専門職としての資質の確保、向上に努めた。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
69	69	67	68	65	65
10月	11月	12月	1月	2月	3月
62	63	63	64	72	78

● 通所介護・認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 送迎
- 健康管理・相談
- 入浴・入浴介助
- 昼食、おやつの提供及び介助
- 排泄介助
- 移動介助
- アクティビティ・プログラム
- グループワーク（手芸クラブ・書道クラブ等）
- 口腔ケア
- 機器を使用した機能訓練・体操
- お好み茶の提供

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分
 - （要介護1） 613円
 - （要介護2） 725円
 - （要介護3） 836円
 - （要介護4） 948円
 - （要介護5） 1,059円
 - 食費負担（おやつ含む） 900円
 - 入浴加算 54円
 - サービス提供体制強化加算Ⅱ 7円
- ※グループワーク（手芸クラブ等）材料費等実費負担（必要時）。

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 10:15~15:20 （半角で入力 例 9:00~15:00）

《職員体制》

管理者	1名（常勤兼務1名）
生活相談員	3名（常勤兼務3名）
看護職員	5名（非常勤兼務5名）
介護職員	12名（常勤兼務5名・非常勤兼務7名）
機能訓練指導員	6名（常勤兼務1名・非常勤兼務5名）
調理員	3名（非常勤兼務3名）
運転担当職員	5名（非常勤兼務5名）

《目標に対する成果等》

- ・ ケアプランに沿ってサービスの提供を行い、ご利用者の心身の状態の維持、向上のために個々の状態、希望に合わせたプログラムを提供した。
- ・ サービスを提供することでご家族等の介護負担の軽減となった。
- ・ ケアマネジャー等の関係機関やご家族へ情報提供を行い、連携・協力を図った。
- ・ ご利用者を中心に置いた考え方、行動の徹底を図れるように業務改善を行った。
- ・ 多くのボランティアの協力を得て、地域ケアプラザ内の通所介護として地域の人々との一層の交流を深め、事業所の特色としてアピールすることができた。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・ 運動機器を利用したりハビリで状態の維持、向上を目指した。
- ・ ケアプラザを利用して活動している地域のボランティアに講師を依頼し、個別レクリエーション（手芸・絵手紙・書道）や全体活動（童謡・民謡・歌謡・3B体操）、お化粧教室・囲碁・将棋・麻雀など様々なレクリエーションを提供した。また、傾聴などのボランティア、小学生や保育園の訪問、実習の学生等の職員以外の地域の方との交流の機会があるので刺激を受けながら、過ごして頂けた。
- ・ ドア to ドアの送迎から一歩踏み込んで戸締りの確認やベッドからのお迎え等、状況に応じた対応を心掛けた。

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
615	657	646	631	684	655
10月	11月	12月	1月	2月	3月
688	671	633	554	572	632

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 送迎
- 健康管理・相談
- 入浴・入浴介助
- 昼食、おやつの提供及び介助
- 排泄介助
- 移動介助
- アクティビティ・プログラム
- グループワーク（手芸クラブ・書道クラブ等）
- 口腔ケア
- 機器を使用した機能訓練・体操
- お好み茶の提供

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分
 - （要支援1） 1,647円
 - （要支援2） 3,621円
- 食費負担 900円
- サービス提供体制強化加算Ⅱ
 - （要支援1） 25円
 - （要支援2） 51円

※グループワーク（手芸クラブ等）材料費等実費負担（必要時）。

《事業実施日数》 週6日

《提供時間》 10:15~15:20 （半角で入力 例 9:00~15:00）

《職員体制》

- 管理者 1名（常勤兼務1名）
- 生活相談員 3名（常勤兼務3名）
- 看護職員 5名（非常勤兼務5名）
- 介護職員 12名（常勤兼務5名・非常勤兼務7名）
- 機能訓練指導員 6名（常勤兼務1名・非常勤兼務5名）
- 調理員 3名（非常勤兼務3名）
- 運転担当職員 5名（非常勤兼務5名）

《目標に対する成果等》

- ・ ケアプランに沿ってサービスの提供を行い、ご利用者の心身の状態の維持、向上のために個々の状態、希望に合わせたプログラムを提供した。
- ・ サービスを提供することでご家族等の介護負担の軽減となった。
- ・ ケアマネジャー等の関係機関やご家族へ情報提供を行い、連携・協力を図った。
- ・ ご利用者を中心に置いた考え方、行動の徹底を図れるように業務改善を行った。
- ・ 多くのボランティアの協力を得て、地域ケアプラザ内の通所介護として地域の人々との一層の交流を深め、事業所の特色としてアピールすることができた。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・ 運動機器を利用したりハビリで状態の維持、向上を目指した。
- ・ ケアプラザを利用して活動している地域のボランティアに講師を依頼し、個別レクリエーション（手芸・絵手紙・書道）や全体活動（童謡・民謡・歌謡・3B体操）、お化粧教室・囲碁・将棋・麻雀など様々なレクリエーションを提供した。また、傾聴などのボランティア、小学生や保育園の訪問、実習の学生等の職員以外の地域の方との交流の機会があるので刺激を受けながら、過ごして頂けた。
- ・ ドア to ドアの送迎から一歩踏み込んで戸締りの確認やベッドからのお迎え等、状況に応じた対応を心掛けた。

《利用者実績（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
92	105	99	97	93	95
10月	11月	12月	1月	2月	3月
98	97	96	75	74	89

平成29年度「六ツ川地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(一般会計)〈地域活動〉

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	18,555,196	0	18,555,196	18,555,196	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当 事業	0		0	299,500	△ 299,500	シルバーカルフナー食材費、各種講座参加料
自主事業収入			0	0	0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代	0		0	0	0	なし
自動販売機手数料	0		0	0	0	なし
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	なし
その他(指定管理料充当)	0		0	0	0	なし
その他(施設使用料相当額 法人負担分)	3,185,000		3,185,000	3,185,000	0	
その他(提案時控除 法人負担分)	0		0	0	0	
収入合計	21,740,196	0	21,740,196	22,039,696	△ 299,500	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	10,450,000	0	10,450,000	10,248,248	201,752	
本俸	7,600,000		7,600,000	7,488,247	111,753	本俸
社会保険料	860,000		860,000	945,843	△ 85,843	健康保険、厚生年金
手当計	1,100,000		1,100,000	1,677,778	△ 577,778	期末手当、通勤手当他
健康診断費	93,000		93,000	0	93,000	なし
勤労者福祉共済掛金	0		0	90,630	△ 90,630	ハマズミなど、年金共済
退職給付引当金繰入額	50,000		50,000	0	50,000	なし
その他	747,000		747,000	45,750	701,250	福利厚生費、親睦会補助
事務費	2,800,000	0	2,800,000	1,353,603	1,446,397	
旅費	45,000		45,000	19,834	25,166	職員交通費
消耗品費	400,000		400,000	389,817	10,183	ペーパータオル、紙コップ、洗剤、除草剤、事務用品
会議随費	30,000		30,000	52,907	△ 22,907	麦茶、コーヒー、職員会議弁当代
印刷製本費	35,000		35,000	15,660	19,340	封筒
通信費	280,000		280,000	18,654	261,346	電話、メール便、切手、年賀はがき
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	なし
その他	0		0	0	0	なし
備品購入費	200,000		200,000	697,175	△ 497,175	車両リース、マット交換、第三者評価
図書購入費	0		0	0	0	なし
施設賠償責任保険	20,000		20,000	0	20,000	なし
職員等研修費	10,000		10,000	2,250	7,750	安全運転講習
振込手数料	0		0	6,569	△ 6,569	振込手数料
リース料	1,600,000		1,600,000	0	1,600,000	なし
手数料	10,000		10,000	0	10,000	なし
地域協力費	100,000		100,000	65,084	34,916	自治会お茶、協賛金
その他	70,000		70,000	85,653	△ 15,653	職員健康診断、細菌検査、印刷、ピアノ修理
事業費	642,000	0	642,000	669,167	△ 27,167	
運営協議会経費	42,000		42,000	19,934	22,066	予算：指定額
指定管理料充当 事業	600,000		600,000	649,233	△ 49,233	自主事業費用
管理費	7,012,196	0	7,012,196	7,229,129	△ 216,933	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算：指定額
光熱水費	4,428,000	0	4,428,000	4,598,835	△ 170,835	電気、ガス、水道
電気料金	1,278,000		1,278,000	1,333,660	△ 55,660	
ガス料金	1,150,000		1,150,000	1,195,695	△ 45,695	
水道料金	2,000,000		2,000,000	2,069,480	△ 69,480	
清掃費	623,000		623,000	1,406,939	△ 783,939	清掃管理
修繕費	112,196	0	112,196	112,196	0	予算：指定額
機械整備費	0		0	36,313	△ 36,313	自動ドア
設備保全費	1,577,000	0	1,577,000	1,074,846	502,154	
空調衛生設備保守	810,000		810,000	791,321	18,679	空調点検
消防設備保守	80,000		80,000	78,359	1,641	消防用設備点検
電気設備保守	70,000		70,000	68,516	1,484	関東保安協会
害虫駆除清掃保守	476,000		476,000	33,446	442,554	害虫防除
駐車場設備保全費	105,000		105,000	0	105,000	なし
その他保全費	36,000		36,000	103,204	△ 67,204	施設整備
共益費	0		0	0	0	なし
その他	272,000		272,000	0	272,000	なし
公租公課	836,000	0	836,000	819,859	16,141	
事業所税			0	0	0	この列は入力しない
消費税	836,000		836,000	819,859	16,141	消費税
印紙税			0	0	0	この列は入力しない
その他()			0	0	0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分			0	0	0	この列は入力しない
当該施設分			0	0	0	この列は入力しない
リース対応費			0	0	0	この列は入力しない
支出合計	21,740,196	0	21,740,196	20,320,006	1,420,190	
差引	0	0	0	1,719,690	△ 1,719,690	

自主事業費収入	600,000		600,000	299,500	300,500	予算：指定管理料を含む
自主事業費支出	600,000		600,000	649,233	△ 49,233	自主事業費用
自主事業収支	0	0	0	△ 349,733	349,733	⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費
管理許可・目的外使用許可収入	0		0	0	0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	使用料(横浜市への支払等)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

平成29年度「六ツ川地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(特別会計)<包括・介護予防・生活支援体制整備>

収入の部 (税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	29,514,824	0	29,514,824	29,514,824	0	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000	△ 150,130	5,638,870	5,638,870	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
指定管理料充当事業(包括)	0		0	0	0	なし
指定管理料充当事業(介護予防)	0		0	0	0	なし
指定管理料充当事業(生活支援)	0		0	0	0	なし
自主事業収入			0	0	0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代	0		0	0	0	なし
自動販売機手数料	0		0	0	0	なし
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	なし
その他(指定管理充充分)	0		0	0	0	なし
その他(提案時控除 法人負担分)	0		0	0	0	
収入合計	35,454,824	△ 150,130	35,304,694	35,304,694	0	

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	30,460,000	0	30,460,000	28,665,748	1,794,252	
本俸	21,731,000		21,731,000	16,122,061	5,608,939	本俸
社会保険料	3,200,000		3,200,000	3,314,872	△ 114,872	健康保険、厚生年金
手当計	5,260,000		5,260,000	8,823,775	△ 3,563,775	期末手当、通勤手当て
健康診断費	69,000		69,000	0	69,000	なし
勤労者福祉共済掛金	0		0	367,290	△ 367,290	ハマふれんど、年金共済
退職給付引当金繰入額	200,000		200,000	0	200,000	なし
その他	0		0	37,750	△ 37,750	福利厚生費、親睦会補助
事務費	1,880,000	0	1,880,000	1,325,487	554,513	
旅費	60,000		60,000	57,186	2,814	職員交通費
消耗品費	250,000		250,000	6,919	243,081	事務用品
会議随費	60,000		60,000	64,475	△ 4,475	職員会議弁当
印刷製本費	35,000		35,000	0	35,000	なし
通信費	263,000		263,000	10,219	252,781	電話・メール便・切手
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	なし
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	なし
備品購入費	100,000		100,000	0	100,000	なし
図書購入費	0		0	0	0	なし
施設賠償責任保険	20,000		20,000	0	20,000	なし
職員等研修費	30,000		30,000	0	30,000	なし
振込手数料	0		0	540	△ 540	振込手数料
リース料	900,000		900,000	0	900,000	なし
手数料	10,000		10,000	759,801	△ 749,801	包括職員紹介手数料
地域協力費	0		0	0	0	なし
その他	152,000		152,000	426,347	△ 274,347	システムサポート、職員健康診断、自転車タイヤ
事業費	1,265,000	0	1,265,000	850,925	414,075	
協力医	525,000		525,000	525,000	0	予算：指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	280,000		280,000	17,401	262,599	介護者の集い、ケアマネ交流会
指定管理料充当事業(介護予防)	151,000		151,000	151,474	△ 474	予算：指定額
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000	157,050	151,950	予算：指定額
管理費	1,849,824	0	1,849,824	1,664,867	184,957	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算：指定額
光熱水費	1,240,000	0	1,240,000	1,222,474	17,526	電気、ガス、水道
電気料金	360,000		360,000	354,518	5,482	
ガス料金	322,000		322,000	317,843	4,157	
水道料金	558,000		558,000	550,113	7,887	
清掃費	115,000		115,000	117,203	△ 2,203	清掃管理
修繕費	29,824		29,824	29,824	0	予算：指定額
機械警備費	0		0	9,652	△ 9,652	自動ドア
設備保全費	465,000	0	465,000	285,714	179,286	
空調衛生設備保守	250,000		250,000	210,349	39,651	空調点検
消防設備保守	25,000		25,000	20,829	4,171	消防用設備点検
電気設備保守	20,000		20,000	18,213	1,787	関東保安協会
害虫駆除清掃保守	130,000		130,000	8,890	121,110	害虫防除
駐車場設備保全費	30,000		30,000	0	30,000	なし
その他保全費	10,000		10,000	27,433	△ 17,433	施設警備
共益費	0		0	0	0	なし
その他	0		0	0	0	なし
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	0		0	0	0	
印紙税	0		0	0	0	
その他()	0		0	0	0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分			0	0	0	
当該施設分			0	0	0	
二一ス対応費			0	0	0	
支出合計	35,454,824	0	35,454,824	32,507,027	2,947,797	
差引	0	△ 150,130	△ 150,130	2,797,667	△ 2,947,797	

自主事業費収入	740,000			0		予算：指定管理料に含む
自主事業費支出	740,000			325,925		介護予防、生活支援自主事業
自主事業収支	0			△ 325,925		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0			0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出	0			0		使用料(横浜市への支払等)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0			0		

平成 29年度 地域ケアプラザ収支報告書<介護保険事業分>

施設名:六ツ川地域ケアプラザ

平成29年4月1日～平成30年3月31日
(単位:千円)

	科目	介護予防支援	居宅介護支援	通所介護	予防通所介護・ 第1号通所介護
	収入	介護保険収入	13222	10383	74011
その他		0	702	0	0
介護予防ケアマネジメント 費		0	0	0	0
事業・負担金収入		0	0	0	0
受託収入		0	702	0	0
		0	0	0	0
		0	0	0	0
その他		0	0	0	0
収入合計(A)		13222	11085	74011	3936
支出		人件費	5235	11428	60292
	事務費	100	1233	10478	0
	事業費	100	245	8747	0
	管理費	100	941	3660	0
	その他	8045	0	58	0
	利用者負担軽減額	0	0	0	0
	消費税	0	0	0	0
	介護予防プラン委託料	8045	0	0	0
		0	0	0	0
	その他	0	0	58	0
支出合計(B)	13580	13847	83235	0	
収支 (A) - (B)		-358	-2762	-9224	3936

平成29年度 自主事業報告書

横浜市六ツ川地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
シルバー カルチャー	(内容) 要介護認定非該当の方対象のミニデイサービス (目的) 高齢者の生きがいづくり	毎月第3木曜日 年12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
障がい児ダンス教室 ハッピーダンス	(内容) 障がい児ダンス教室 (目的) 小学生～高校生を対象とした余暇支援活動事業	第1, 3土曜日 年21回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ぴよんぴよんダンス (新規事業)	(内容) 親と子の体操教室 (目的) 親子でスキンシップをはかり母親同士子ども同士の交流や、母親の育児不安の軽減を支援	7月～月1回 年9回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
網戸張り講座	(内容) 網戸張り教室 (目的) 地域ニーズ (アンケートによる) に応えた教室の開催	5月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
フィルムの貼り方 講座	(内容) ガラス窓へフィルムの貼り方教室 (10月) (目的) 地域ニーズ (アンケートによる) に応えた教室の開催	10月 年1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
手芸講座 (新規事業)	(内容) 手芸講座 (目的) 地域ニーズ (アンケートによる) に応えた教室の開催	6月～月1回 年10回

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
男のパン作り教室 (新規事業)	(内容) 男性対象のパン教室 (目的) 地域ニーズ (アンケートによる) に応えた教室の開催	6, 7, 9月 年3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
夏休み工作教室	(内容) 工作教室 (目的) 子どもの思い出作りと、ケアプラザの存在を身近に感じてもらう機会の提供	8月 年1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
包丁研ぎ教室	(内容) 研ぎ石を使っての包丁研ぎ教室 (目的) 地域ニーズ (アンケートによる) に応えた教室の開催	9月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
健康街歩き	(内容) ウォーキング (目的) 地域住民の健康増進	4月, 10月 年2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おはなしコンサート (読み聞かせ会) 年2回 (新規事業)	(内容) 親と子で参加し、ふれあいが持てる場を提供する (目的) 親子でスキンシップをはかり母親同士子ども同士の交流や、母親の育児不安の軽減を支援	7月, 11月 年2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
生演奏ミュージック サロン はなみずき (新規事業)	(内容) 地域住民の音楽発表の場 (目的) ボランティア企画の実施	10月～月1回 年6回

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア 交流会	(内容) 六ツ川ケアプラザで登録されているボランティアの交流会 (目的) ボランティアネットワーク構築	6月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア 懇談会	(内容) 六ツ川ケアプラザで登録されているボランティアの懇談会 (目的) ボランティアネットワーク構築	11月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
貸館大掃除	(内容) 貸館場所の大掃除 (目的) 貸館の管理意識をもってもらいながら、貸館利用団体同士の交流を図る	12月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
貸館利用団体 交流会	(内容) 各貸館利用団体の活動発表と団体同士の交流 (目的) 貸館利用団体同士の交流の場の提供をし、地域の福祉保健活動の推進を促進させる	平成30年1月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
落語公演 (シルバー カルチャー内で一般 公開で実施)	(内容) ボランティア落語家による公演 (目的) 高齢者、地域住民の趣味娯楽	11月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
脳トレ勉強会 (新規事業)	(内容) 脳トレ勉強会 (目的) 地域住民の介護予防	10月～月1回 年5回

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
こどもお菓子作り 教室	(内容) 低学年は保護者参加、子どもお菓子作り教室 (目的) 子どもの思い出作りと、ケアプラザの存在を身近に感じてもらう機会の提供	12月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
自治会等 出前講座 (新規事業)	(内容) 障害者の支援団体「コクア」の皆さんに講師を依頼し、六ツ川大池地区の地域住民・福祉保健活動の担い手を対象に障害理解講座を実施 (目的) 地域住民・福祉保健活動従事者に障害についての一層の理解を促す	9月 年1回

平成29年度 自主事業報告書

以下 費用発生なし事業

事業名	目的・内容	実施時期・回数
囲碁将棋サロン	(内容) ボランティア登録の囲碁将棋の有段者がメインとなって開催。空きスペースの有効活用 (目的) 団塊の世代を中心として仲間作りの場の提供	毎週火・金曜日 (囲碁) 毎週火・木曜日 (将棋) 年153回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
囲碁教室	(内容) 囲碁を通じて、小中学生と高齢者の異世代交流の場の提供。また、高齢者の引きこもり予防として外出の機会を促す。 (目的) 異世代交流と高齢者引きこもり予防	毎週土曜日 50回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
よこはま シニアボランティア ポイント登録研修会	(内容) 事業の説明とボランティア活動についての研修 (目的) ボランティア意欲向上と介護予防	4月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
健康麻雀入門教室	(内容) 全くの初心者を対象とした麻雀教室 (目的) 麻雀を通じて、脳を活性化させいつまでも元気に暮らせるよう、介護予防を目的とした麻雀教室	4月～9月 毎週日曜日 年26回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
スマートフォン講座 (新規事業)	(内容) スマートフォンをこれから購入予定の方、購入したが使い方がわからない方向けの講座 (目的) 地域住民からの要望に応える	4月, 11月 年2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
医師による講座 「認知症にならない ためのお話」	(内容) 協力医による認知症にならないためのお話 (目的) 認知症についての知識を学び、認知症予防を心がけてもらう	5月 年1回

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
うつ病理解講座 (新規事業) (共催事業)	(内容) うつ講座 (目的) 地域住民にうつ病について理解してもらう	7月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防体操教室 (シルバー カルチャー内で包括 と共催事業)	(内容) 介護予防体操 (目的) 老後の不安解消、健康維持・増進	7月,平成30年2月 年2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ペット写真展	(内容) ペット写真展 (目的) クールシェアを兼ねケアプラザの存在周知	7月～9月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
エコキャップ運動 (新規事業)	(内容) ペットボトルキャップを回収し、ゴミなど分別 作業をする (目的) ボランティア企画の実施	11月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア 講座	(内容) 区社会福祉協議会協力でのボランティア講座 (目的) ボランティア活動について理解してもらい活動 の支援をする	12月 年1回

平成29年度 自主事業報告書

横浜市六ツ川地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者の集い	<p>(目的) 介護者のストレスを解消・軽減し、今後の介護を笑顔を交えて実施していただくようにする。</p> <p>(内容) 現在介護中、既に介護を終えた方、また今後のためにとの目的での参加者の交流。制度の話や様々な福祉サービスについての情報提供を行ったり、ケアプラザ協力医の参加により病気や薬に関する講話を頂き、質問の時間を設けたことにより、参加者から大変好評だった。</p>	平成29年5月26日 ・7月21日 ・9月22日 ・平成30年2月23日 計4回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ケアマネ交流会	<p>(目的) エリア内の介護支援事業所のケアマネジャーが集い、ケアプラザ協力医の協力を得ての学習会及び地域の社会資源情報等を話題にしながら交流を図り、日常の介護支援に役立てる。</p> <p>(内容) 今年度は、「食中毒」「肥満と生活習慣病」「肺炎球菌」と毎回テーマを替えての学習会、意見交換を行った。また情報提供として、カフェとおりみち（認知症サロン）、みまもりタグ・みまもりタグアプリ、服薬支援ロボ、介護予防・介護予防ケアマネジメント研修、南区在宅医療相談室、六ツ川脳トレ歩こう会、横浜市における特定健診について等の情報提供を行った。</p>	平成29年8月25日 ・11月24日 ・平成30年2月16日 計3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域ケア会議	<p>(目的) 地域包括支援ネットワーク構築のための有効な手法のひとつとして、位置づけられている。個別ケース地域ケア会議、包括版地域ケア会議として実施。</p> <p>(内容) 個別版は「独居、認知症高齢者の閉じこもりを防ぐには」・「認知症になっても暮らし続けられる地域を目指して」をテーマとしてそれぞれ実施。</p> <p>包括版は「コミュニテイ・アズ・パートナーモデル及びマインドマップを用いた地域課題の抽出と共有」を行った。</p>	個別ケース版2回 (平成29年6月23日 ・12月15日) 包括版1回 (平成29年7月19日)

平成29年度 自主事業報告書

横浜市六ツ川地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
スマホ教室A コース	<p>(目的) 概ね70歳以下のシニアの方を対象に、auスマートフォンを使い、実際に触れながら、基本的な操作方法や、安全・安心に利用して頂く方法を学び、情報収集や情報発信に活用して頂くため。</p> <p>(内容) KDDI スマホ安全教室(シニア向け講座)を開催。KDDIより講師1名とアシスタント2名により進行。別所コミュニティハウスで行った。Aコースは、これから購入予定の方向けとして行った。</p>	9/27・1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
スマホ教室B コース	<p>(目的) 概ね70歳以下のシニアの方を対象に、auスマートフォンを使い、実際に触れながら、基本的な操作方法や、安全・安心に利用して頂く方法を学び、情報収集や情報発信に活用して頂くため。</p> <p>(内容) KDDI スマホ安全教室(シニア向け講座)を開催。KDDIより講師1名とアシスタント2名により進行。別所コミュニティハウスで行った。Bコースは、既に持っている方向けとして行った。</p>	11/30・1回

平成29年度 自主事業収支報告書

施設名 六ツ川地域ケアプラザ

事業名	①主な対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
シルバーカルチャー (年12回実施)	高齢者	216,190	地活	2,490	178,500	35,200	11,110	193,487	11,593
	238		包括						
	750		生活						
障がい児ダンス教室 ハッピーダンス (年21回実施)	地域(障害)	62,087	地活	59,987	1,500	600	60,018	2,069	0
	91		包括						
	年1回300		生活						
びよんびよんダンス (年9回実施) (新規事業)	乳幼児と保護者	31,805	地活	31,805	0	0	30,069	0	1,736
	163		包括						
	0		生活						
網戸張り講座 (年1回実施)	地域	5,246	地活	4,246	1,000	0	0	5,000	246
	2		包括						
	500		生活						
フィルムの貼り方講座 (年1回実施) (新規事業)	地域	5,382	地活	5,382	0	0	0	5,000	382
	4		包括						
	0		生活						
手芸講座 (年10回実施) (新規事業)	地域	87,550	地活	27,550	60,000	0	55,550	30,000	2,000
	58		包括						
	1,000		生活						
男のパン教室 年3回実施 (新規事業)	地域	35,472	地活	21,072	14,400	0	16,665	17,727	1,080
	18		包括						
	800		生活						
夏休み工作教室 (年1回実施)	小学生	10,800	地活	6,000	3,900	900	6,000	4,800	0
	19		包括						
	300		生活						
包丁研ぎ教室 (年1回実施)	地域	3,668	地活	3,168	500	0	3,341	73	254
	5		包括						
	0		生活						
健康街歩き (年2回実施)	地域	6,474	地活	6,474	0	0	3,000	0	3,474
	32		包括						
	0		生活						
おはなしコンサート (年2回実施) (新規事業)	乳幼児と保護者	12,000	地活	12,000	0	0	12,000	0	0
	30		包括						
	0		生活						
生演奏ミュージックサロン はなみずき (年6回実施) (新規事業)	地域	25,978	地活	25,978	0	0	24,000		1,978
	254		包括						
	0		生活						
ボランティア交流会 (年1回実施)	ボランティア	91,966	地活	91,966	0	0	0	91,966	0
	52		包括						
	0		生活						
ボランティア懇談会 (年1回実施)	ボランティア	4,629	地活	4,629	0	0	0	4,629	0
	17		包括						
	0		生活						
貸館大掃除 (年1回実施)	地域	4,080	地活	4,080	0	0	0	0	4,080
	32		包括						
	0		生活						
貸館利用団体交流会 (年1回実施)	地域	4,080	地活	4,080	0	0	0	0	4,080
	60		包括						
	0		生活						

平成29年度 自主事業収支報告書

事業名	①主な対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
落語公演 (年1回実施)	地域	5,555	地活	5,555	0	0	5,555	0	0
	30		包括						
	0		生活						
脳トレ勉強会 (年5回実施) (新規事業)	高齢者	22,220	地活	22,220	0	0	22,220	0	0
	29		包括						
	0		生活						
こどもお菓子作り教室 (年1回実施)	小学生	4,051	地活	1,051	3,000	0	0	4,051	0
	11		包括						
	500		生活						
自治会等出前講座 共催費(年1回実施) (新規事業)	地域	10,000	地活	10,000	0	0	10,000	0	0
	31		包括						
	0		生活						
		649,233		349,733	262,800	36,700	259,528	358,802	30,903

平成29年度 自主事業収支報告書

施設名 **六ツ川地域ケアプラザ**

事業名	①主な対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
介護者の集い	介護家族	5,830	地活						
	延べ33名		包括	5,830	0	0	0	5,830	0
	無料		生活						
ケアマネ交流会	エリア内ケアマネジャー	2,706	地活						
	延べ39名		包括	2,706	0	0	0	2,706	0
	無料		生活						
地域ケア会議	地域住民、介護・医療・行政職他	8,865	地活						
	延べ95名		包括	8,865	0	0	0	8,865	0
	無料		生活						
		17,401		17,401	0	0	0	17,401	0

事業ごとに別紙に記載してください。

平成29年度 自主事業収支報告書

施設名

六ツ川地域ケアプラザ

事業名	①主な対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
スマホ教室Aコース	地域の方	500	地活						
	20名		包括						
	無料		生活	500	0	0	0	500	0
スマホ教室Bコース	地域の方	500	地活						
	20名		包括						
	無料		生活	500	0	0	0	500	0
		1,000		1,000	0	0	0	1,000	0